

J.LEAGUE NEWS



J.LEAGUE

編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 Jリーグ百年構想

Vol. 137

30.May.2007

Will Be
J.LEAGUE

©J.LEAGUE PHOTOS



川崎Fが準々決勝進出を決めたアレマ マラン戦。ドリブル突破を図る中村

©J.LEAGUE PHOTOS



浦和が準々決勝進出を決めたシドニーFC戦。相手選手と競り合う小野

川崎F、浦和がACL準々決勝進出

現行方式となって以来、日本のチームとして初めて

アジアのクラブチームナンバーワンを決める「AFCチャンピオンズリーグ (ACL) 2007」において、Jリーグの川崎フロンターレと浦和レッズがグループステージのそれぞれのグループで1位となり、準々決勝進出を決めた。この大会がACLとして生まれ変わった2002-03年以來、日本のチームとしては初の快挙となる。川崎Fは5月9日のグループステージ第5節、ホームのアレマ マラン (インドネシア) 戦に3-0と快勝してグループFの首位が確定。浦和は同23日の第6節、ホームでシドニーFC (オーストラリア) と0-0で引き分け、グループEの首位となった。決勝トーナメントはホーム&アウェイ方式により、準々決勝は9月19日、同26日に行われる予定。

オフィシャルスポンサー

Calbee Canon SUNTORY JOMO Nicos
KONAMI AIDEM HEIWA GE Money

ネットワークパートナー



Jリーグ百年構想パートナー

朝日新聞

リーグカップスポンサー



エキップメントサプライヤー

molten



GWはファミリーJoinデイズ

Jリーグは4月28日から5月6日の期間に開催されたJ1・J2リーグ戦会場で、恒例となった「ファミリーJoinデイズ」を開催した。今年で8回目となる同イベントは、試合の前後に家族で楽しめる催しが満載。夏を思わせるような青空に恵まれた会場もあれば、あいにくの雨模様となった会場もあった。だが、すべての会場に共通していたのは、参加者の笑顔と歓声。多くのファン・サポーターや家族連れ、友人同士でにぎわい、ゴールデンウィークの楽しいひとときを満喫した。

来場者へのスペシャルプレゼント



JリーグファミリーJoinデイズが行われる試合会場に来場した皆さんには、「Mr.ピッチ マグネット」(Mr.ピッチのメッセージ入り)がプレゼントされた。この機会に、試合観戦はもちろん、子供からお年寄りまで多くのファン・サポーターにスタジアム全体の雰囲気を楽しんでいただき、「Jリーグ百年構想」に参加していただきたいという思いとともに、ゴールデンウィークの観戦記念となるよう感謝の気持ちを込めて企画されたものだ。

コンサドーレ札幌 4月28日

暖かな日差しの中、札幌ドームにはJリーグ百年構想メッセンジャーの城彰二さんとMr.ピッチが登場した。城さんは、午前中から札幌ドームのサブグラウンドで行われた「サッカー教室&ボール遊び」に参加し、約250人の親子連れとサッカーゲームなどを楽しんだ。札幌市から訪れた江本秀太郎さん、秀蔵くん(4歳)親子も城さんと一緒にミニゲームに参加。「いつもは試合を応援するばかりだが、今日は子供と一緒にボールをかって、とても楽しかった」と話してくれた。



©J.LEAGUE PHOTOS



©J.LEAGUE PHOTOS

サッカー教室&ボール遊び

横浜FC 4月28日

ボールで遊ぼう



J.LEAGUE PHOTOS

徳島ヴォルティス 4月29日

快晴の鳴門総合運動公園陸上競技場(5月12日より鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム)、メインスタンド前広場は、屋台、移動イベント専用車(新鮮な徳島号)などが並べられ、試合前の緊張感をほぐすような楽しさに満ちあふれていた。ピッチでは、50組の親子サポーターの皆さんがサッカー教室に参加。その後も徳島の選手6名によるサイン会が開催され、楽しい一日を過ごした。



©J.LEAGUE PHOTOS

川崎フロンターレ 4月29日

大道芸



J.LEAGUE PHOTOS



©J.LEAGUE PHOTOS

ミズノ親子サッカークリニック



©J.LEAGUE PHOTOS

ヴァンフォーレ甲府 5月3日

ホームスタジアムの山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場の内部施設を見学する「小瀬探検ツアー」が実施された。スタッフのガイドを聞きながら、選手ロッカー室、電光掲示盤制御室などを見学。試合の行われるピッチにも入ることができ、整った美しい芝生に歓声を上げた。甲府の熱烈なサポーターで、足にけがをして松葉づえでの参加となった茨城県笠間市の前山美由紀さんは、「どうしても来れなかった。普段は見ることのできない場所を見学できて楽しかった」と貴重な経験の感想を述べた。



スタジアム探検でJoin

© J.LEAGUE PHOTOS



ファミリーゲートフラッグでJoin

FC東京 5月3日



スタジアム見学

© J.LEAGUE PHOTOS

ザスバ草津 5月3日 サッカー縁日



© J.LEAGUE PHOTOS

名古屋グランパスエイト 5月3日

毎試合恒例のイベント「ゲーフラ大SHOW」では、赤いレプリカユニフォームを着た親子連れや子供たちが好きな選手の似顔絵やメッセージを入れたゲートフラッグ作りを楽しんだ。

愛知県知多市から来た小学生5人組の男の子たち(石浜裕登くん=小5、伊藤啓くん=小5、山下祐輔くん=小3、富田亮良くん=小5、近藤祐哉くん=小5)も「ゲーフラ大SHOW」に参加。「楽しかった」「難しかったけど、上手にできたからよかった」とうれしそうに完成したゲートフラッグを見せてくれた。

また、スタジアムのピッチでは、「スペシャルオリンピックスサッカー交流ゲーム」が行われ、たくさんの参加者が、本物のピッチの上でサッカーを楽しんだ。

サンフレッチェ広島 5月3日

バルーンアートコーナー



© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS



スペシャルオリンピックスサッカー交流ゲーム



© J.LEAGUE PHOTOS

ゲーフラ大SHOW



子供の日 折り紙コーナー

© J.LEAGUE PHOTO

大宮アルディージャ 5月6日

今年のファミリーJoinデイズでMr.ピッチの最後の登場となった埼玉スタジアム2002だが、この日はあいにくの雨天。それでもホームの大宮サポーターを、クラブマスコットのアルディ君とともに迎えたMr.ピッチは、逆に多くの親子の皆さんに温かい声援をいただくことになった。多くの屋外イベントが中止となってしまったが、それでも第3グラウンドでの朝日新聞ファミリーサッカースクールには100組の親子が参加。約1時間30分にわたり、大宮のコーチとともに楽しいひとときを過ごした。

© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

朝日新聞&大宮アルディージャ ファミリーサッカースクール

ジュビロ磐田 5月6日

「獣拳戦隊ゲキレンジャー」ショー



© J.LEAGUE PHOTOS

サガン鳥栖 5月6日

サッカーでJoin、芝生でJoin



© J.LEAGUE PHOTOS

社会貢献 厚生労働省の協力により「Jリーグ介護予防事業」をスタート

シニア世代の健康増進や体力向上を目指して

Jリーグは、厚生労働省と連携して「Jリーグ介護予防事業」をスタートする。これは、昨年施行された改正介護保険法に基づく介護予防普及事業の一環で、Jクラブがスタジアムや練習場を活用した地域に密着したスポーツ教室などを実施し、シニア世代の健康増進や体力向上に寄与することを目指す。

実施にあたっては、厚生労働省よりJリーグに対し、「平成19年度老人保健健康増進等事業」として本年度計4700万円の補助金交付が決定した。本年度は、Jリーグ31クラブ中29クラブが介護予防事業を実施する予定(うち、25クラブが厚生労働省補助事業対象)。

【Jリーグ介護予防事業 概要】

1. 事業名: Jリーグ介護予防事業
厚生労働省の支援による活動は、「平成19年度老人保健健康増進等事業」の対象。
2. 主催: 社団法人 日本プロサッカーリーグ/実施Jクラブ
3. 対象事業
スポーツ活動を通じた高齢者の健康づくりに関する調査研究事業。
Jクラブが実施する介護予防事業の対象は以下のとおり。
○一般的健康維持増進プログラム
・体力測定: 定期的な体力測定
・健康教育: 栄養・健康増進などの講座
・健康プログラム: 体操・ストレッチ・ウォーキング・エアロビクス・筋力アップトレーニング
○専門的プログラム/コミュニティー参加プログラムなど
・サッカー(フットサル)教室&大会 ・他競技種目の教室&大会
・観戦講座、スタジアムツアー ・スポーツボランティア(講習会を含む)ほか

2007年「Jリーグ百年構想」PRビジュアル「高齢化社会編」

2007年「Jリーグ百年構想」のプロモーションビジュアル第二弾は「高齢化社会編」(写真右)。

本年度より厚生労働省の協力でJクラブが実施するシニア世代を対象とした健康教室など「介護予防事業」の様子をビジュアル化したもので、ポスターのほか、雑誌広告、スタジアム大型映像での動画CMなどで露出を予定している。



『高齢化社会への取り組み、始まっています。』

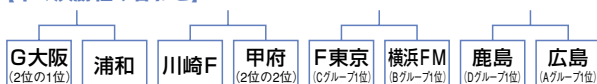
「生涯スポーツ社会」を目標に、Jリーグと各クラブは、シニア世代に向けた「スポーツ教室」や「健康教室」を開催してきました。そして2007年から、厚生労働省の「介護予防事業」への協力を開始。高齢者が介護を必要とせずすむように、施設を有効利用したり、トレーナーや選手がストレッチなどの健康法を指導していきます。なにより、なにより、と安堵するMr.ピッチなのでした。

大会 2007 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント進出チーム決定!

予選リーグ最終節で一気に準々決勝進出の8強が出そう

4グループの予選リーグが5月23日に終了し、決勝トーナメント進出の8チームが出そろった。最終節を前に1チームも予選リーグ突破が決まらぬ大接戦を、広島、横浜FM、F東京、鹿島、G大阪、甲府が勝ち抜き、AFCチャンピオンズリーグ2007への出場で予選リーグを免除された浦和、川崎Fを加えて、準々決勝を争うことになった。

【準々決勝組み合わせ】



※表の右側のチームが第1戦ホームチーム、左側のチームが第2戦ホームチームとなる。
※決勝トーナメント準決勝の組み合わせは、準々決勝終了後、オープンドローによって決定する。

- 準々決勝 第1戦 7月7日(土)/第2戦 7月14日(土)
※いずれも土日分散開催の可能性あります。
- 準決勝 第1戦 10月10日(水)/第2戦 10月13日(土)
- 決勝 11月3日(土・祝)



© J.LEAGUE PHOTOS
Dグループの甲府(青)対鹿島。両者ともに8強入り

大会 「2007JOMOオールスターサッカー」の開催を発表

8月4日、エコパスタジアムでキックオフ。サポーター投票も受付中

J1リーグ戦の18クラブの選手たちが「J-WEST」と「J-EAST」に分かれて戦う恒例の「JOMOオールスターサッカー」の開催概要発表が、4月23日に静岡市で行われた。この形式となつて11回目となる今年の大会は8月4日の17時に、エコパスタジアムでキックオフされる。出場監督・選手はサポーター投票とJリーグ推薦によって決定。インターネット、携帯電話、ハガキによるサポーター投票は、締め切りが7月2日必着となっている。全投票者の中から抽選で選手のサイン入りユニフォームなどもプレゼントされる。



© J.LEAGUE PHOTOS
左から藤本(清水)、Jリーグの鬼武チエアマン、(株)ジャパンエナジーの柏木保男取締役常務執行役員、川口(磐田)

- 大会呼称表記 2007JOMOオールスターサッカー
- 開催日時 8月4日(土) 17:00キックオフ
- 会場 エコパスタジアム(旧静岡スタジアム エコパ)
- チーム編成 J-WEST vs J-EAST
〈J-WEST〉9クラブ
ヴァンフォーレ甲府/アルビレックス新潟/清水エスパルス/ジュビロ磐田/名古屋グランパスエイト/ガンバ大阪/ヴィッセル神戸/サンフレッチェ広島/大分トリニタ
〈J-EAST〉9クラブ
鹿島アントラーズ/浦和レッズ/大宮アルディージャ/ジェフユナイテッド千葉/柏レイソル/F.C.東京/川崎フロンターレ/横浜 F・マリノス/横浜FC
- テレビ放送 テレビ朝日系列で全国放送
- 入場券販売 6月上旬発売予定
- ※開催概要等の詳細はJリーグ公式ホームページ内の特設サイト(<http://www.j-league.or.jp/jomoallstar/>)を参照



開催地である静岡県を、そして日本を象徴する富士山と、太陽をモチーフにしたメインビジュアル

イベント「サントリー×Jリーグ スポーツクリニック2007」がスタート

大阪開催で通算20回目。雨の中に子供たちの元気な歓声

「サントリー×Jリーグ スポーツクリニック2007 in 大阪」が、4月22日に大阪府吹田市の万博記念競技場で行われた。「スポーツを通して、子供たちの心身の健全な発達を促進したい」というJリーグスポーツフェローパートナーであるサントリー株式会社とJリーグの思いが一つになって実現したイベントは、今回で通算20回目の開催。ラグビートップリーグのサントリー サンゴリアスとバレーボールVリーグのサントリー サンバズ、そして開催地元のJクラブの協力を得て、参加した子供たちが3種類のスポーツを体験できるという特色がある。雨模様の中で始まった今回も、ピッチ上には子供たちの元気な歓声が響いたが、各自が1種目を終えたところで本降りとなり中止が決定した。第2回は5月27日に東京都府中のサントリー府中スポーツセンターで行われ、年内に各地で合計7回の開催を予定している。



あいにく雨模様だったが、子供たちは思い切り体を動かした

審判「2007年 第1回合同審判研修会」を実施

報告・講演・ビデオ研修で共通理解を図る

5月4日にJFAハウスで実施された「2007年 第1回合同審判研修会」には、31名のJリーグ主審、53名の同副審をはじめ、Jリーグ審判委員会委員、インストラクターらが出席した。JFA（日本サッカー協会）/Jリーグ審判委員会の松崎康弘委員長のあいさつによる開講式の後、報告、講演、ビデオ研修が行われた。SR/国際主審の西村雄一氏によるFIFA（国際サッカー連盟）セミナー報告は、4月に開かれたFIFAレフェリーセミナーのフィードバック。川本治氏がサッカー解説者として感じるなどについて講演し、トップレフェリーインストラクターの上川徹氏はビデオ映像を使って試合中に起こるさまざまな状況に応じた対応、判断、主審と副審との協力関係などについて解説し、共通理解を図った。

実行委員・参与選任

Jリーグは5月15日に開催した理事会で、以下実行委員・参与の選任を承認した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
横浜FC	奥寺 康彦 (株)横浜フリースポーツクラブ 代表取締役会長	坂本 壽夫 (さかもと ひさお) (株)横浜フリースポーツクラブ 代表取締役社長
サンフレッチェ広島	久保 允滄 (株)サンフレッチェ広島 代表取締役社長	下村 孝生 (しもむら たかお) (株)サンフレッチェ広島 代表取締役専務
水戸ホーリーホック	小林 寛 (株)フットボールクラブ水戸ホーリーホック 前代表取締役社長	宮田 裕司 (みやた ひろし) (株)フットボールクラブ水戸ホーリーホック 代表取締役社長
参与		
小林 寛：前水戸ホーリーホック 実行委員 J2 実行委員：2002年2月～2007年4月（在任5年）		

「2007 Jリーグ U-12フェスティバル」を開催

Jリーグは7月30日より全国5会場で、すべての子供たちにゲームの機会を提供し、能力に応じた指導を受けられる環境構築を目指し、Jリーグ加盟31クラブ所属の12歳以下選手を対象としたイベント「2007 Jリーグ U-12フェスティバル」を実施する。

本イベントは、「ゲーム」と、ゲームによって抽出された課題の分析と解決の「トレーニング」を繰り返し実施できるリーグ戦を行うほか、ASEプログラムや自然体験プログラムなどの活動も行い、さまざまなコミュニケーションを図りながら、豊かな人間性をはぐくむことを目的として開催される。

7月30日～8月24日の期間、宮城県・群馬県・長野県・静岡県・愛媛県の5会場に分かれ、全55チームが参加する。

デンマークから審判員招聘

Jリーグは、海外審判員の特長を学び日本人審判員の技術をさらに向上させ、Jリーグにより良い審判を提供できるようにし、海外レベルの審判をJリーグに提供するため、デンマークから国際審判員ニコライ・フォルクアーツ氏を招聘（しょうへい）する。

デンマークは、FIFAワールドカップでも多くの主審を輩出している国で、審判の育成、強化を組織的、効果的に行っており、競技レベルにおいても、FIFAランキング23位（5月16日付）と上位にランクされている。デンマークリーグやEURO予選など高いレベルで活躍する同氏がJリーグで審判することにより、日本の審判員や審判指導者に良い影響を与えるのみならず、Jリーグの試合により良い試合環境を提供することが期待される。

1. 招聘審判員

① 氏名
Nicolai Volquartz
(ニコライ・フォルクアーツ)

② 生年月日
1965年2月7日 (42歳)

③ 国籍
デンマーク

④ 審判歴
1984年 審判活動を開始
1997年～現在 国内1級審判員
1999年～現在 国際審判員
国内トップリーグ 約200試合
国際試合 約50試合
(UEFAチャンピオンズリーグ、UEFAカップ、EURO2008予選ほか)

2. 招聘期間 2007年5月30日～6月30日



商品化ライセンス契約更新について

Jリーグは、株式会社ジェイリーグエンタープライズ（代表取締役社長：豊島 吉博）と商品化ライセンス契約を更新した。ジェイリーグエンタープライズに対して、JリーグおよびJクラブのロゴ・マークや選手の個人肖像を使用した商品の商品化権などを付与する。契約期間は、2007年4月1日から15年3月31日の8年間。

J-STATS Optaの商業利用に関する契約

Jリーグは、株式会社博報堂DYメディアパートナーズおよびJリーグ映像株式会社とJ-STATS Optaの商業利用に関する契約を更新した。Jリーグ公式試合を対象にして作成された選手のパフォーマンスデータであるOptaデータを「J-STATS Opta」として公認する。契約期間は、2007年2月1日から08年1月31日の1年間。

2007年度日本芝草学会春季大会&ジャパン・ターフ・ショーを後援

Jリーグは、日本芝草学会が主催する2007年度日本芝草学会春季大会&ジャパン・ターフ・ショーを後援する。6月7～9日の期間、国営昭和記念公園（立川市）などで学会や公開シンポジウム「スポーツのある風景—市民生活と芝生」などが開催される予定。

平成19年度「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」に協力

Jリーグは昨年に引き続き、警察庁主催の平成19年度「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」に協力する。7月1～31日の期間で、試合会場における場内アナウンス・電光掲示板などでの告知活動を実施する。

Report

レポート

Jリーグの15年を振り返る 第3回

「競技場」

15年目を迎えたJリーグの歩みを振り返る3回目は「競技場」について。プレーする選手たちにとっても、観戦するファン・サポーターにとっても、プロスポーツにふさわしい舞台を整えることは、リーグを成功に導くために不可欠だった。その実現のための努力は、日本のスポーツ界に大きな影響を与えることになる。さらに2002 FIFAワールドカップの開催によって、より快適に観戦できる施設の必要性に拍車がかげられた。

衝撃的なインパクト

応援するチームのカラーを身にまとい、モダンで快適なスタジアムに集う大勢のファン・サポーター。緑のカーペットのような芝生の上を歩きかうボール。夜の試合ともなれば、明るいカクテル光線の下、色鮮やかなユニフォームの選手たちのスピーディーな動きが際立つ。Jリーグの試合会場で目にするのできる、ごく普通の光景だ。

トップクラスのサッカーでは当たり前になっているこうしたシーンが、Jリーグの創設当初はまさに画期的な出来事だった。Jリーグ創設への期待感に応え、当時のスポーツ界に衝撃的ともいえるインパクトを与えた。

Jリーグはプロフェッショナルのスポーツとして、それにふさわしい舞台を整えることを重視した。常緑の天然芝が敷かれたピッチ、平均1,500ルクス以上の照度をもつ照明装置、1万5000人以上を収容できる競技場は、そのための代表的な基準だった。もちろん、こうした基準をクリアするため、Jリーグの試合で使用する競技場の所有者である自治体が多額の予算を計上するなど、関係する諸機関の

Jリーグ規約(抜粋)

第4章 競技 第1節 競技場

第29条〔競技場〕

- ① 競技場は、次の各号の条件を満たすものでなければならない。
 - (1) ピッチは天然芝であり、原則として縦長105m、横幅68mであること
 - (2) ピッチの外側周囲には、原則としてすべて1.5m以上の芝生部分を確保すること(したがって、縦長108m以上、横幅71m以上の芝生部分を確保すること)
 - (3) ゴールのポストおよびバーは、白色かつ丸形(直径12cm)で、埋込式その他Jリーグが安全性を認定したものであり、鉄製その他ボールを反発するような補強材を使用しないこと
 - (4) コーナーフラッグおよびコーナーフラッグポストは、Jリーグ指定のものであること
 - (5) ラインは幅12cmとし、明瞭に引くこと(原則としてペイント方式とする)
- ② フィールド(ピッチおよびその周辺部分)には、選手のプレーに影響を与え、または危険を及ぼすおそれのある物は一切放置もしくは設置してはならない。
- ③ 競技場の観客席は、下記のとおりとする。ただし、芝生席は、観客席とはみなされない。
 - (1) J1クラブ主管公式試合：15,000人以上収容できること
 - (2) J2クラブ主管公式試合：10,000人以上収容できること
- ④ 競技場には、平均1,500ルクス以上の照度をもつ照明装置を設置しなければならない。

第30条〔競技場付帯設備〕

競技場は、次の各号の付帯設備を備えるものでなければならない。

- (1) 本部室
- (2) 更衣室(温水シャワーが使用でき、かつ、ホームチーム、ビジターチームおよび審判員について各々別個に用意されていること)
- (3) 記録室(ピッチ全体を見渡すことができ、かつ、個室であること)
- (4) 医務室
- (5) ドーピングコントロール室
- (6) 警察・消防控室
- (7) 記者室
- (8) カメラマン室
- (9) 来賓席
- (10) 記者席(ピッチ全体を見渡すことができ、屋根付きで、かつ、手元照明付きの机を備えていること)
- (11) 場内放送設備
- (12) テレビ中継およびラジオ中継用放送ブース(ピッチ全体を見渡すことができ、かつ、音声機材を設置することができること)
- (13) スコアボード(原則として電光掲示盤であること)
- (14) メンバー掲示板(スコアボードでの兼用可)
- (15) リーグ旗およびクラブ旗の掲揚ポール
- (16) 入場券売場
- (17) 飲食物およびサッカー関連グッズ等の販売所
- (18) テレビカメラ設置スペース(中継関連カメラ用およびニュース関連ENG用)
- (19) テレビ中継車両駐車スペース
- (20) ケーブル敷設スペース(中継車とカメラおよび放送ブース間)
- (21) 伝送用機材等設置スペース(アンテナ/アンテナ搭載車両/光ファイバー用端末)

尽力があったことも忘れてはならない。

変革の象徴ともいえるのが、芝生に対する意識が大きく変わったことだ。1年を通して緑に保つ必要性は、研究やメンテナンスへの努力を促し、その成果は着実に表れた。水はけの問題とともに、完ぺきともいえるピッチが各地に生まれ、来日したアスリートや関係者からは一様に称賛の声が寄せられている。

競技施設など、Ｊリーグがスポーツ界のハード面に投じた一石の影響は計り知れない。「芝生はスポーツをしたり、遊んだりするもの」という概念が普及し、後に校庭や園庭の芝生化も促進。温暖化の抑制にも結びつく施策だけに、社会的にも意義深い。

観戦意識の変化

Ｊリーグの発足によって、競技場とその付帯施設などに対する意識が大きく変わったが、さらなるステップアップは2002 FIFAワールドカップが契機だった。大会の試合を開催するために、北は北海道の札幌から南は九州の分まで、1996年5月以降に10競技場が竣工された。ドーム、あるいは開閉式屋根を持つ競技場をはじめ、いずれも大部分が屋根に覆われた当時の最新式の施設だった。

特に大会を翌年に控えた2001年に完成が相次ぎ、新しい施設への関心の高さ、ホームスタジアムとして使用するＪクラブの努力が相まって、アルビレックス新潟を筆頭に鹿島ア

ントラーズ、浦和レッズ、コンサドーレ札幌などが飛躍的に入場者数を伸ばした。雨の日でもぬれずに試合を観戦できるという快適さが、ファン・サポーターにとって大きな魅力となったのだ。

サッカーは天候に関係なく行われるスポーツとのイメージが強い。かつては雨の日でも屋根のないゴール裏でぬれながら、選手たちと一体化して声援を送り続けるのが、筋金入りのサポーターの代名詞だった。だが、FIFAワールドカップや欧州の屋根付きの競技場の情報などがもたらされることによって、観戦者の意識も変化してきたのである。

また、すばらしい競技場の建設は、FIFAワールドカップの直接的な影響だけにとどまらない。東京都、愛知県、千葉県などにも、立派な競技場が完成し、その快適さに注目が集まっている。プロサッカーがエンターテインメント性を追求する以上、ファン・サポーターが快適に、安全に観戦ができなければならない。今後はますます、こうした側面の整備に拍車がかかるだろう。

近年の新たな傾向

この15年間の競技場にまつわる事例で特筆したいものに「ネーミングライツ」「指定管理者制度」がある。

ネーミングライツは施設の命名権を指す場合が多いが、Ｊリーグに関係するものでは03

年に東京スタジアムがネーミングライツ契約を結び、味の素スタジアムと改称したのが最初。以来、各地の競技場がそれに続いている。今年もすでに4つの競技場が改称されており、募集中のものもある。所有者側からいえば、管理運営費の負担を軽減するための方策の一つだが、Ｊクラブがホームスタジアムとして使用し、競技場のブランドイメージが向上したことによる一つの成果といえる。

指定管理者制度は、03年9月の地方自治法の一部改正により、公共施設の管理運営を自治体から民間へ直接委託できるようになったもの。現在、Ｊクラブの単独としては鹿島が県立カシマサッカースタジアムの管理を受託し、施設を利用した健康教室などを実施している。運営のための人員、採算等も考慮しなければならないが、地域に密着した活動を行える機会の拡大、ひいてはＪリーグ百年構想の実現にもかかわるだけに、今後の動向を大いに注目したい。

Ｊリーグの発足によって競技場の概念が大きく変わり、2002 FIFAワールドカップの開催がグレードアップにつながった。新たなステップアップの機会はいつ、どのように訪れるのか。そのために、どのようなアクションを起こすべきなのか。Ｊリーグは現在、ハード面、ソフト面について国内外のさまざまな事例を収集し、日本型の理想的な競技場の創造に向けて検討を重ね、関係各方面に働きかけていく方針だ。

Ｊクラブのホームスタジアム一覧 2007年5月30日現在

	チーム名	ホームスタジアム	所有者	管理者	収容数	完成年月日
J	鹿島アントラーズ	県立カシマサッカースタジアム	茨城県	(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー	39,026人	1993年4月(2001年5月改修)
	浦和レッズ	埼玉スタジアム2002	埼玉県	(財)埼玉県公園緑地協会	63,700人	2001年10月
	大宮アルディージャ	さいたま市浦和駒場スタジアム	さいたま市	(財)さいたま市公園緑地協会	21,500人	1979年9月(1995年8月改修)
	ジェフユナイテッド千葉	さいたま市大宮公園サッカー場	さいたま市	(財)さいたま市公園緑地協会	15,500人	2000年4月
	ジェフユナイテッド千葉	フクダ電子アリーナ	千葉市	シズオクト・東洋グリーン蘇我球場共同事業体	18,500人	2005年10月
	柏レイソル	市原臨海競技場	市原市	(財)市原市都市開発公社	16,933人	1968年10月
	FC東京	日立柏サッカー場	(株)日立製作所	(株)日立柏レイソル	15,900人	1986年
	川崎フロンターレ	味の素スタジアム	東京都	(株)東京スタジアム	50,000人	2000年10月
	横浜F・マリノス	等々力陸上競技場	環境局緑政部中部公園事務所	25,000人	1982年10月(1986年、1994年、1995年改修)	
	横浜F・マリノス	日産スタジアム	横浜市	横浜市体育協会・横浜マリノス・管理JV共同事業体	72,370人	1997年10月
	横浜FC	横浜市三ツ沢公園球技場	横浜市	横浜市	15,046人	1949年10月
	ヴァンフォーレ甲府	横浜市三ツ沢公園球技場	横浜市	横浜市	15,046人	1949年10月
	アルビレックス新潟	山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場	山梨県	(財)山梨県体育協会	17,000人	1968年4月
	アルビレックス新潟	東北電力ビッグスワンスタジアム	新潟県	(財)新潟県都市緑化センター	42,300人	2001年3月
	清水エスパルス	新潟市陸上競技場	新潟市	(財)新潟市開発公社	18,671人	1963年7月
	ジュビロ磐田	日本平スタジアム	静岡県	静岡市振興公社	20,339人	1991年6月(1995年3月改修)
	名古屋グランパスエイト	ヤマハスタジアム(磐田)	ヤマハ発動機(株)	(株)ヤマハフットボールクラブ	16,893人	1994年2月
	ガンバ大阪	名古屋市瑞穂陸上競技場	名古屋市	(財)名古屋市教育スポーツ振興事業団	20,000人	1941年2月
	ヴィッセル神戸	万博記念競技場	(独)日本万国博覧会記念機構	(独)日本万国博覧会記念機構	21,000人	1974年7月(1987年4月改修)
サンフレッチェ広島	ホームズスタジアム神戸	神戸市	神戸ウイングスタジアム(株)	34,000人	2001年10月	
大分トリニータ	広島ビッグアーチ	広島市	(財)広島市スポーツ協会	50,000人	1993年4月	
J	コンサドーレ札幌	九州石油ドーム	大分県	(株)大宣	40,000人	2001年3月
	コンサドーレ札幌	札幌ドーム	札幌市	(株)札幌ドーム	41,580人	2001年5月
	ベガルタ仙台	札幌厚別公園競技場	札幌市	(財)札幌市公園緑化協会	20,005人	1986年11月(1998年スタンド改修)
	モンテディオ山形	ユアテックスタジアム仙台	仙台市	(財)仙台市公園緑地協会	19,694人	1997年3月
	水戸ホーリーホック	NDソフトスタジアム山形	山形県	(財)山形県総合運動都市公園公社	20,315人	1991年6月
	ザスパ草津	笠松運動公園陸上競技場	茨城県	(財)茨城県体育協会	22,022人	1973年(2001年4月改修)
	東京ヴェルディ1969	群馬県立敷島公園県営陸上競技場	群馬県	(財)群馬県公園緑地協会	10,050人	1988年9月
	湘南ベルマーレ	味の素スタジアム	東京都	(株)東京スタジアム	50,000人	2000年10月
	京都サンガF.C.	平塚競技場	平塚市	平塚市	18,500人	1984年3月(1994年スタンド改修)
	セレッソ大阪	京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場	京都市	(財)京都市体育協会	20,242人	1942年5月(1985年7月、1996年9月改修)
	徳島ヴォルティス	大阪長居スタジアム	大阪市	(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会	50,000人	1996年5月
	愛媛FC	徳島ヴォルティス	徳島県	(財)徳島県スポーツ振興財団	20,441人	1971年5月
	アビスパ福岡	愛媛県総合運動公園陸上競技場	愛媛県	(財)愛媛県スポーツ振興事業団	20,000人	1979年10月
サガン鳥栖	東平尾公園博多の森球技場	福岡市	福岡市	22,563人	1995年7月	
サガン鳥栖	鳥栖スタジアム	鳥栖市	(財)鳥栖市地域振興財団	24,490人	1996年5月	

参考資料：SOCCER STADIUMS in JAPAN【日本のサッカースタジアム】(財団法人日本サッカー協会、2002年)



© J.LEAGUE PHOTOS

ミュンヘンのアリアンツアレナ (写真は2006 FIFAワールドカップ時)

ドイツのスタジアムとクラブ経営に思う

Jリーグ HRディベロップメントグループ マネージャー ◎ 中西 大介

この4月12日から17日まで、短期間かつ駆け足ではあったが、2006 FIFAワールドカップ後のドイツサッカー、特にブンデスリーガを見て回る機会を得た。フランクフルト、メンヘングラッドバッハ、シュツットガルト、ミュンヘンを毎日移動するという強行軍ではあったが、だからこそ見えてくるものもある。

当然のことだが、FIFAワールドカップの開催がその国のサッカーのみならず、人々の生活にもたらすものは非常に大きい。その中でも目に見える最も影響力のある遺産は、スタジアムだろう。スタジアムのハードをどう生かすかは、ブンデスリーガ各クラブのマーケティングマインドにかかっている。ここでのキーワードは欧州サッカーの「アメリカスポーツビジネス化」だ。

現在、ブンデスリーガは金、土、日曜の週末3日間の分散開催で、3都市のスタジアムがどのように使われているかを見ることができた。

スタジアムのハード面はクラブの収益力に直結する。ブンデスリーガは欧州のトッ

プリーグの中で最も入場料が安いことで知られる。1試合平均約4万人を誇る動員力のベースに、このことがあるのは間違いない。ただし、VIPシートやビジネスシートの最近の充実ぶりは、アメリカスポーツがこれまでに手がけてきたものをベンチマークした結果である。スタジアムにはこの視点が多く反映されており、クラブの大きな収入源になっている。

また、スタジアムでいかに長い時間を過ごしてもらえるかが重要だと考えられ、ラウンジは試合終了後何時間でも利用可能だ。ここには本物のVIP、VIP気分を味わいたい人、このスペースと時間を商談に使う人々が、試合のたびに多くの時間を過ごす。

一方、こうした人々が数多くスタジアムを利用することによって、本当に熱心なサポーターはゴール裏の一角に限られてしまい、熱狂的な雰囲気からはほど遠いものとなったり(特にミュンヘンで強く感じた)、前半の40分を過ぎると席を立ち始めラウンジに向かう客が多く、興ざめするムードを醸し出してしまっていた。

アメリカスポーツは野球をはじめ、タイムアウトやインングの間など「小休止」がある。アメリカスタイルのスタジアムはこうしたスポーツのVIPやスポンサー向けにできしており、サッカーというスポーツとの不整合も強く感じた。最も重要なスタジアムの雰囲気壊しやしやすい面を備えているのは、注意すべき点であろう。これはわれわれが欧州をベンチマークする際にも考えねばならぬことである。

またブンデスリーガや各クラブを支える人材の面でも変化を感じる。今季の優勝を飾ったVfBシュツットガルトのCEOは元IBMドイツのCEOである。一流のビジネスパーソンである彼は、非常にモダンな経営者だ。サッカークラブにとってのナレッジマネジメントやCRMは一般企業と同様に重要であり、特に人材に対しての洞察力、エンパワーメントについては特に重要であると述べている。

一方、バイエルン・ミュンヘンのCEOは言わずと知れた元西ドイツ代表の名選手、カールハインツ・ルンメニゲである。サッカーがビジネスとしての側面が強くなると、その反動としてサッカーピープルがスポーツとしてのサッカーを取り戻そうとする。ミシェル・プラティニのUEFA(欧州サッカー連盟)会長就任はその好例だろう。

ドイツサッカーはこの2つのタイプのリーダーがほどよくミックスしていると思われる。欧州サッカーのビジネス化の潮流は無視できないが、スポーツとして守らなければいけない線は守らなければならない。ビジネスとスポーツの狭間で、どこに線を引いて進んでいくべきかという点について、ドイツのサッカーはいい意味での慎重な姿勢を崩さない。そういった彼らの思考のプロセスは十分に参考にすべきだろう。

このところドイツ映画の、旧東ドイツ時代からドイツ統一を描いた作品が、日本でもヒットしている。ドイツ統一から15年たって、ようやく客観的に見るができるようになったに違いない。Jリーグも開幕して15年。継承すべきものを継承し、変えるべきところは勇気を持って変えていく。Jクラブが地域に存在することによって、そのプロセスで地域が変わることもたくさんあるはずだ。ドイツのサッカーは、いつもわれわれに何かを与えてくれる。

写真提供: © J.LEAGUE PHOTOS



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。